

仙台湾の環境と漁業-沿岸域の底魚資源を中心として- 【19.7.5研究集会】

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-05-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 上原, 伸二
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006405

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



仙台湾の環境と漁業 —沿岸域の底魚資源を中心として—

標記の研究集会が、2007年7月5日に東北大学農学部において開催され、試験研究機関を中心に83名が参加しました。

まず最初に、開催趣旨説明を兼ねた仙台湾底魚研究のレビューが行われ、1960年代から70年代にかけて、国際生物学事業計画の「北方冷水海域における生物群集の生産に関する総合的研究」に代表される組織的な研究により、多くの知見が集積されてきたことが紹介されました。次に、メインプログラムとして、現在仙台湾で行われている水産海洋学的研究と資源管理の事例報告が3つのセッションに分けて行われました。

セッション1では、仙台湾の海洋学的特性に関して2題の報告がありました。宮城県の定線調査をもとに、仙台湾が明瞭かつ安定な季節変動を呈する典型的な沿岸海域の特性を有していることが示されるとともに、水質・底質環境調査から、近年、貧酸素水塊の発生が多発化していること、およびその発生要因に関する検討結果が示されました。

セッション2では、底魚類成育場としての仙台湾に関して3題の報告がありました。仔魚の研究事例から、浮遊

期の動態を解明するうえで、沿岸域の流れの把握が不可欠であることが示されました。着底稚魚については、個々の生態に関する知見が集積されてきているものの、成育場の評価手法の確立などが指摘されました。さらに、成育場環境を支える低次生産構造について、食物連鎖の出発点として底生珪藻類の重要性が示されました。

セッション3では、漁業生産の場としての仙台湾に関して、3題の報告がありました。まず、相馬沖のトロール調査による沖合資源の動向が紹介されました。次に、減少の著しいマコガレイの資源管理手法として、産卵場保護の有効性が指摘されるとともに、この知見に基づいた漁業者の自主的な資源管理の取り組み事例が紹介されました。さらに、科学的知見に基づいた資源管理が、漁業者の信頼関係の中で実現できたことが強調されました。



総合討論では、(1)湾内の流れの詳細な調査、(2)成育場の評価手法の確立、(3)減耗過程の解明、(4)産卵場の特定、(5)漁業者との共同調査の推進などの必要性が強調されました。

今後は、外部資金を獲得するための研究計画の立案が望まれます。

研究担当：沿岸資源研究室 上原 伸二



東北水産研究レター No. 5

平成19年9月 発行

発行：(独)水産総合研究センター

編集：(独)水産総合研究センター 東北水産研究所

〒985-0001 宮城県塩釜市新浜町3-27-5

TEL 022-365-1191 FAX 022-367-1250

※ 平成19年4月3日から ホームページアドレスが変更となりました。

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/> (変更前 <http://www.myg.affrc.go.jp/>)